
第 2 8 1 号

2019年2月26日

日 本 気 象 学 会

関 西 支 部 ニ ュ ー ス

- 2018年度の例会報告
- メールアドレス登録のお願い
- 住所変更届のお願い

〒 540-0008

大阪府中央区大手前4丁目 1-76

大阪合同庁舎第4号館

大阪管区气象台内

日本気象学会関西支部

振替 00980-5-18318

TEL (06) 6949-6308

FAX (06) 6944-2121

ホームページ：

<http://kansai.metsoc.jp/>

E-mail：

kansai-info@metsoc.jp

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記しています。メール送信の際は半角で入力してください。)

○ 2018年度の例会報告

〈第1回〉四国地区

第1回例会が2018年12月7日(金)と翌8日(土)の2日間にわたり、高知大学朝倉キャンパス共通教育棟3号館1階311教室にて開催されました。

例年通り大阪管区气象台四国地区気象研究会との共催で、とても充実したプログラムとなりました。气象台関係者、大学関係者など、37名ほどの参加があり、四国地区理事である高松地方气象台長の開会挨拶により始まりました。

例会は4つのセッションで構成され、大阪管区气象台気象研究会から7件、気象学会から7件の計14件の研究発表と、特別講演が行われました。

第1セッション(座長は北村氏(高知地方气象台))は高知大学、高知地方气象台、日本気象予報士会から平成30年7月豪雨の解析について4件の報告がありました。

第2セッション(座長は村田氏(高知大学))は高松地方气象台、松山地方气象台、高知大学から、平成30年7月豪雨の解析、漏斗雲と飛散物による竜巻状流れの可視化について4件の報告がありました。

その後、特別講演として、岩手大学名越教授より「局地気象研究のすすめー「肱川あらし」と「北岩手波状雲」の事例を中心にー」と題して、大洲盆地（愛媛県大洲市）で発生した霧が肱川を下る様子や北岩手の波状雲を写真や動画を用い、解りやすく解説をしていただきました。また、シャボン玉の中に雲を作る実験を実演していただきました。

例会1日目終了後の懇親会では、高知大学内の生協食堂において、气象台、大学関係者と例会の研究発表等を話題に楽しいひとときを過ごすことができました。

第3セッション（座長は松下氏（高松地方气象台））は高知地方气象台、岡山理科大学、徳島地方气象台から台風第21号に伴い高知県中部で発生した局地的な暴風、長期観測から得られた肱川あらしと谷筋の水平気圧傾度の関係、紀伊水道北部沿岸で出現する霧の発生環境について3件の報告がありました。

最後の第4セッション（座長は佐々氏（高知大学））は高知大学、松山地方气象台、香川大学から高知・五台山における雨滴粒度分布の季節変化、新居浜アメダスの西風による気温の上昇、20世紀初頭における西部北太平洋モンスーンとインド亜大陸北東部モンスーンの関係について3件の報告がありました。

最後に、特別講演をお引き受け頂いた名越利幸教授と会場の手配や準備をしていただいた高知大学、高松地方气象台、高知地方气象台、の皆様にご心よりお礼申し上げます。



特別講演の風景



四国地区例会の発表風景

(四国地区理事：若山 晶彦)

〈第2回〉中国地区

第2回例会は、2018年12月15日（土）に岡山大学環境理工学部において開催されました。本例会への出席者は23名で、4件の一般講演に加えて特別講演が行われました。研究会発表、特別講演ともに大橋唯太会員（岡山理科大）を座長に進められました。

一般講演では、「衛星データを用いた琵琶湖表面のクロロフィル分布推定」（亀井亮佑；岡山大・院環境生命）として、一般公開されたNASA/MODISデータを用いて琵琶湖表面のクロロフィル濃度の季節変動および15年間の長期変化の特徴について講演されました。次に「河川堤防からの蒸発量の測定と比較」（滝本千晴；岡山大・環境理工）として、堤防強度の評価に資するための蒸発量の評価手法の検討について現地実測の結果に基づいて報告されました。続いて「ひまわり8号のデータを用いた日射量推定の実用性

評価」(石崎未帆;岡山大・環境理工)として、最新の高解像度のひまわり衛星データを利用した簡易な日射量推定手法の検討と蒸発量評価への適用結果をまとめられました。最後に「札幌の積雪不純物がアルベドに与える影響の定量的評価」(広沢陽一郎;岡山大・院自然科学)について、北海道における10年間の長期測定データをPBSAM(積雪アルベド物理モデル)に適用し、融雪期の短波放射の強制力が涵養期に比べ10倍近くになること、その要因が積雪不純物濃度であることを示唆する結果について発表されました。

特別講演は「渦相関観測と生物地球化学的観測を用いた諏訪湖におけるメタン動態の解明」という演題で信州大学理学部の岩田拓記助教よりお話し頂きました。諏訪湖の湖底定点から継続的に放出されているメタンの動態について、連続気象観測と定期的な湖水試料採取を通じて、放出量の包括的評価を行った例について詳しくお話し頂きました。また最新の世界での同様のメタンガス放出の評価事例についてもご紹介くださいました。



特別講演の風景



中国地区例会の発表風景

(中国地区理事:岩田 徹)

<第3回> 近畿地区

第3回例会は、大阪管区気象台近畿地区気象研究会との共催で、2018年12月22日(土)に大阪管区気象台16階大会議室で開催されました。

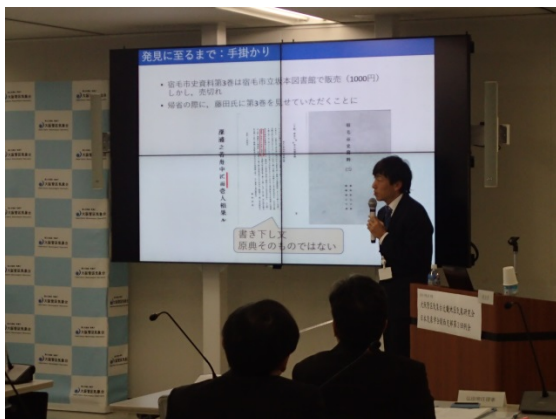
はじめに、竹内義明日本気象学会関西支部長から開会の挨拶、続いて気象研究所地震津波研究部第二研究室の弘瀬冬樹主任研究官による特別講演、支部会員による一般講演の順で行われました。

特別講演では、「古文書から分かる昔の大地震」と題して、約1時間の講演をいただきました。1854年に発生した安政南海地震を記録した「蕨岡家文書」や1707年に発生した宝永地震と富士山宝永噴火を記録した「飯作家文書」を題材に、文書の再発見・再解読により明らかとなった大地震と大津波、富士山の噴火等の様子について解説されました。また、南海トラフをはじめとしたプレート境界面で発生する巨大地震の予測に有効な手法の一つである地震発生サイクルシミュレーションについても解説されました。

一般講演では、研究発表数は6題と例年よりやや少なくなりましたが、研究テーマは、大雨の予測手法の研究、降水及び気温の長期変化の解析、豪雨と台風に関する数値実験など多岐にわたり、参加者からも多くの質問が出され、活発な意見交換がなされました。

近畿地区例会としては、昨年に続き土曜日開催となり、気象台職員 13 名を含む 18 名の参加がありました（役員・スタッフを除く）。来年度も例会と併せて講演会を企画する等、活気ある例会開催に努めますので、多くの方のご参加を是非よろしくお願いいたします。

最後に、事前の準備や調整、当日の運営にご協力いただいた大阪管区気象台職員、日本気象学会関西支部の関係者の皆様方、座長をお引き受けいただいた先生方、その他例会の運営に御支援、ご協力をいただいた皆様に心よりお礼申し上げます。



特別講演の風景



近畿地区例会の発表風景

（幹事：溝本 崇）

○ メールアドレス登録のお願い

関西支部ニュースは年 3 回（5 月、10 月、3 月）発行予定で、2006 年度から関西支部ホームページに掲載して閲覧していただいています。支部ニュース発行、総会・年会・例会などの開催通知等は支部全会員に E-mail で配信しています。まだ登録されていない会員の方は、会員氏名・番号、E-mail アドレスを関西支部事務局まで、ご登録いただくよう重ねてお願いします（関西支部の連絡先などは最初のページをご覧ください）。

○ 住所変更届のお願い

機関誌「天気」などの発送は学会本部事務局の会員名簿に基づいて行っています。学会事務局では会員の皆様の異動状況を早めに把握するように努めておりますが、把握漏れがあった場合には旧勤務地（旧住所）に発送され、旧勤務地（旧住所）の方に転送等の御迷惑をおかけすることになります。会員の皆様におかれましては、転勤等により勤務地（住所）が変わった場合、気象学会ホームページの会員登録情報の変更ページで申請いただくか、変更届を速やかに下記の学会本部事務局宛にご連絡いただきますようお願いいたします。

※ホームページ <https://www.metsoc.jp/membership/update>

※学会事務局 〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁内

TEL : 03-3216-4403 FAX : 03-3216-4401

住 所 等 の 変 更 届

・会員番号： No.

・氏名：

・旧勤務地（旧住所）：〒

・新勤務地（新住所）：〒